

1 『ドS軍人様の強制射精コントロール』

2 ↳ 捕まった俺は情報を吐くまで手コキで焦らされまくる〜』ASMR脚本

3

4 ◆登場人物

5 ■ドS軍人様

6 ・あなたを捕らえた敵国の女軍人。あなたに性的な責めで秘密を聞き出そうとする。

7 ・男勝りで高圧的な性格。

8 ・サディストで活かさず殺さず情報を得るのが喜び。

9 ・中々口を割らない人間（あなた）がいると聞き、あなたの元にやってくる。

10

11	【ドS軍人様の強制射精コントロール】
12	場所…拷問室
13	
14	
15	▼拷問官、入室
16	SE…鉄扉が開く音（ギイ…）
17	SE…ヒールが近づく音（カツカツカツ…）
18	
19	▼高圧的に
20	「貴様が噂のスパイか…どうやら随分と口が固いようだな…」
21	「並の拷問には耐えられたようだが…私は今までのやつとは一味違つぞ？」
22	
23	SE…ヒールが近づく音（カツカツ…）
24	
25	▼顔をあなたの耳元まで持ってきて・移動時の吐息
26	「ふう…」
27	
28	▼耳元で囁き
29	「なんせ、人間は快樂には耐えられないのだからな…」
30	
31	▼耳舐め開始
32	「ん…んちゆう…んれろ…れろお…んああ…あむう…」
33	「んっ…んん…れろれろお…うああ…」
34	
35	▼耳元で囁き
36	「ふふ…気持ちいいか？ クク、可愛い奴め…」
37	「楽しい。もっともっと舐めてやるからな…」
38	

⑥接

⑥近

## ▼耳舐め開始

「ちゅぶっ…れるお…んあ…んっ…ん…はあ…あむ…えむ…

ああ…えむっ…れるれる…」

「んはっ…はあむ…うああむ…えろ…ああむ…っはあ…はあむ…」

「れるれるろ…むはあ…ああむ…んんんんっ…

えお…じゆるっ…じゅぞぞぞ…」

## ▼耳元で囁き

▼聞き手が気持ち良さそうなのを見て煽るように。

「んはっ…ふふふ、耳をよだれまみれにされた気分はどうだ？ 屈辱か？」

## ▼あなた、何かしらの反応

・間

## ▼ゆっくりと前の方に移動しながら

「ふふふっ！ 口ではなんとのおうと…身体は素直なんじゃないか？」

⑨接↓⑥近

## ▼拷問官様、反対側に移動

SE：ヒールの移動音（カツカツ）

## ▼耳元で囁き

「こちらもしてほしそうに赤くなっているじゃないか？」

「いいだろう」

「貴様の汚らしい耳をもう1つ舐めてやるんだ、心から感謝するといい…」

③近

64

▼息吹きかけ

「ふう〜…くふふっ」

65

③接

66

▼耳舐め開始

「ああむっ…えろっ…えろろろっ…じゅる…

68

じゅずずずずず…んあ…あむ…」

69

「はむ…ああ…あむむ…へろ…じゅっ…れるお…へむう…んあ…れるれ…」

70

「じゅるっ…じゅるるるるるるるっ…ずぞぞぞぞぞ…

71

れるれるれ…ん…んはあっ…」

72

▼耳元で囁き

▼あやすように

「はあ…正直になってもいいんだぞ…

75

③接↓③近

大丈夫、快樂は恥ずかしいことじゃない…」

77

▼息吹きかけ

「ふう〜っ…」

79

③接

「ククク…本当に身体の方は正直なようだな…どれ…」

81

③接↓③近

「耳舐めだけでは物足りなくなってきたろう…

82

こっちのほうも可愛がってやるとしよう…」

83

84

▼拷問官様、股間に手を伸ばす

SE：股間にふれる音

85

86

87

88 ▼拷問官様、楽しそうに股間をいじりながら

89 ⑥近 「ふう…ふう…なかなかいいモノを持っているじゃないか」

90 「なんだ、手袋越しでは不満か…？ 身の程を弁えろ…」

91 今の貴様の立場を考えれば殺されてもおかしくないのだからな…フッフ」

92 「ほら、先っちょをいじってやったらどうだ？ ほらほら？」

93 「こうやってカリカリと…繊細な部分をかかれる気持ちはどうだ…？」

94 まったく哀れな姿だな…クク…」

95 「さて…本格的に弄んでやろうじゃないか…」

96 「ほおれ…上下に…」

97 SE…手コキ音・水音あり ※以下継続

98 「しーしーしー…しーしーしー…ほーら…ほーら…ゆっくりと感じていけ…」

99 「ほうら…ほうら…ふふふ、我慢汁が溢れてきているぞ…」

100 気持ちいいんだな…」

101 「いいぞ、もっとしてやるからな…」

102 「ほらほら…感じる…私は自分に正直な男の方が好きだぞ…」

103 ▼手コキしながら、煽るように

104 「はは、本当に貴様の股間は正直だな」

105 「随分と元気になってきたじゃないか…こんなにビンビンにさせて…」

106 「なんとみっともない姿だ…」

107 私が男なら自ら舌を噛む事を選んでしまうだろうな…」

108

109

110

111

112

113 ▼耳元に顔を近づけ

114 ⑧近↓⑨接  
「どれ、また耳を舐めてやろう…何遠慮することはない…  
私からのサービスだ…」

116 「んあっ…はむっ…じゅるるるる…あむ…えむ…ああ…ずずず…ぞぞぞ…」  
117 「れえろっ…ふふっ、どうだ気持ちいいか？ 気持ちいいな？」  
118 大丈夫、私はわかっているぞ…はふう、んじゅ、れちゅりゅう」  
119 「えろ…ふっ、なかなか昂ぶってきたようじゃないか…」  
120 「いいぞ、その調子だ…射精する瞬間を思い浮かべるんだ…」

121 SE…手コキ音・スピードアップ

122 「ほーら、ほら…貴様の白濁汁が金玉の中でグツグツと湧き上がって  
123 ⑧近↓⑦近  
来てるぞ…」

124 「快感に身を委ねて…何も考えずに射精をするんだ…」

125 「ほら、そろそろだ…イクぞ、イクぞ…イクイクイク…」  
126 「なんてな…」

127 ▼拷問官様、手の動きを止める

128 SE…手コキ音・ストップ

129 「くふふっ…急に止められてびっくりしたか？  
130 わかるぞ、寸止めは辛いだろう…」

131 SE…手コキ音×1

132 「いきそうでいけないのは辛いよなあ…？」  
133 大丈夫だ、最初にも言ったが、人は快樂には耐えられん…」  
134 「だから、いいんだぞ…喋ってしまえ…」  
135 そうすれば、お前を天国に連れて行ってやる…」

136  
137  
138  
139  
140

141		「ほう？ 耐えるか…？ まだ男としての誇りがあるようだな…」
142		「ならばいいだろう…存分に、楽しめ…クク」
143		
144		▼拷問官様、寸止め手コキを繰り返す
145		SE：手コキ音×3
146		
147	⑥近↓④近	「ホラホラ…ゆっくり…ゆっくり…遊んでやる…」
148		
149		▼拷問官様、耳元で息を吹きかけて
150	③接↓③近	「フウーツ…おっと、つい耳に息をかけてしまった…」
151		「フフ、震えてなんと哀れなのだろうな…」
152		
153		SE：手コキ音×3
154		
155	③近↓④近	「まったくこんな事で随分と大きくして…」
156		「とはいえ、粗末なモノには変わらんがな…」
157		
158		SE：手コキ音ストップ
159		
160	④近↓⑤近	「…っと。また出そうになったな。」
161		「…っと。また出そうになったな。」
162		「…っと。また出そうになったな。」
163		「…っと。また出そうになったな。」
164		「…っと。また出そうになったな。」
165		「…っと。また出そうになったな。」
166		「…っと。また出そうになったな。」
167		「…っと。また出そうになったな。」
168		「…っと。また出そうになったな。」

169 ⑤近↓⑥近

「ほおら、こうして…くちゆくちゆ…ぐちゆくちゆ…辛いかな？」

まったく、ここまで男とは無様になれるのだな…」

「ゆっくり、ゆっくりと…この哀れなお前の棒切れを…」

ふう、ふう…しこしこ…しーこ…しーこ…」

「おやおや、また随分と射精が近くなっているじゃないか。」

そこらへんの野良犬でももっと堪え性があるぞ？」

「はあ…畜生以下の存在だな、貴様は…」

「ほら…ほら…擦って…止めて…擦って…止めて…」

何度だって繰り返してやる…何度も、何度も…」

「貴様が握っている情報を吐くまで…ずっと、ずっとだ…」

「ふん、言っておくが無理矢理出そうとしても無駄だからな…」

私にはお前の事が手に取るように分かるのだ…」

そうしたときは、これを力強く握りしめて止めてやる…」

「さて…どうする？ このままずっと生殺しでも構わんが…」

▼あなた、降参

▼拷問官様、気付かないふりをしながら。

「…ん？ 何か言いたいのかな？ そうか…なら、言うといいな。」

私が聞いてやる…」

SE：衣擦れ音

▼あなた、拷問に負けて情報を吐く

▼間

193

192

191

190

189

188

187

186

185

184

183

182

181

180

179

178

177

176

175

174

173

172

171

170

169

194 「そうか…なるほど…いい子だ」  
195 「ではご褒美をやろう…」

196  
197 ▼拷問官様、激しくこすりだす

198 SE：手コキ音高速

199  
200 ▼激しく責め立てながら

201 「ほら！ もう遠慮することはない！ 情けなくイってしまえ！

202 この負け犬が！」

203 「そうだ！ お前は負け犬だ！ 犬畜生だ！

204 快樂のために仲間を売った愚か者だ！」

205 「だからその犬らしく、無様に精液をぶちまけろっ…！」

206 「ほら、ほら、溜め込んでいたものを全部だーせっ！

207  
208 SE：射精音

209  
210 ▼手に精液を受けながら

211 「ふう…」

⑨近→⑥近

212  
213 「ふふふ、随分と気持ちよかったろうな…大丈夫だ、私はお前の味方だ…」

214 「哀れなお前の、優しい味方だ…だから…」

215  
216 ▼拷問官、再びあなたの男性器をいじり始める。

217 SE：手コキ音高速

218  
219

220

「もっと、話してもらおうぞ…お前が知っているすべてを…」

221

そうすれば、いくらでも快樂をくれてやる…」

222

「全て吐くまでこれは終わらんからな…覚悟しろよ」

223

224

END